

# じぞうくんのそぼくな疑問



図書館の前で  
じぞうくんとかもくんが  
何やら話を始めました。

**じぞう** 朝晩はだいぶ涼しくなり、秋めいてきたね。  
**かも** じぞうくんは、何で秋を感じますか。  
**じぞう** ぼくは「きんもくせい」かな。香りに気づくと、どこに咲いているか、つい探しちゃうんだ。  
**かも** 私もつい探してしまいます。「きんもくせい」の花言葉って知っていますか。  
**じぞう** なんだろう。  
**かも** 「謙虚」「謙遜」「気高い人」という言葉があるようですよ。強い香りに対して、花が小さく控えめに見えることに由来しているそうです。  
**じぞう** 素敵だね。ますます好きになっちゃった。ぼく「すすき」も好きだよ。花言葉は何？  
**かも** 「すすき」は花なんですか。えーと、調べてみますね。あ、載ってました。「活力」「元気」「心が通じる」だそうです。  
**じぞう** へえ！何だか花に意味があるなんて面白いね。この二つの花束作りたいな。きんもくせいは枝だし難しいかな。  
**かも** そうですね。誰にあげるんですか。  
**じぞう** もちろん、かも君に！気高くて、心が通じ合っているから、ぴったりでしょ。  
**かも** …その気持ちだけで十分です。ありがとうございます。

## かもくんが読んだ本はこちら

『すてきな花言葉と花の図鑑』  
 監修/川崎景介 西東社 【627 ス】  
 『思いを贈る花言葉』  
 監修/国吉純 ナツメ社【627 オ】

# 10月の行事

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
新刊 お話し会	休館					
9	10	11	12	13	14	15
新刊 お話し会						
16	17	18	19	20	21	22
新刊 お話し会		赤ちゃん お話し会				
23	24	25	26	27	28	29
新刊 お話し会					休館	福面 文庫
30	31					
新刊 お話し会						

## 秋のスペシャル～福面文庫～

10月29日から1階新刊コーナー横で開催します。  
 司書イチオシの本を、本のタイトルがわからない状態で貸出をします。  
 いつもとは違う本の世界と出会えるかもしれません。お楽しみに！

## 編集後記

10月の予定表は少しシンプルですが、11月に中旬に予定しているイベントに向け皆で頑張っています。

詳しくは、次号でお知らせいたします。  
 乞うご期待!!! (M)

## すがも自然絵巻 夏 完成ご報告

絵本作家の齋藤槇先生を講師にお迎えして行っているワークショップも今年で3年目を迎えました。

「冬編」・「秋編」に続く3作目の「夏編」は、これまでで最長。29枚の力作が繋がりました。

いつか、3作すべてを展示する機会を作ればと考えていますので、楽しみにしていてください！



## じぞうくん

「すがも自然絵巻」を見てると東京(楽鴨)にもたくさんの自然があるんだなあとしみじみ感じます。

イラスト作 S

# 食いしん坊司書の部屋



今回のテーマは  
**「おいしいものが  
 出てくる昔話」**  
 ベテラン児童担当司書  
 ならではのセレクトです。

日本の昔話に出てくる秋の味覚と言えば、柿や梨を思い浮かべる人もいるでしょう。わたしが話を聞いて、食べたいなあと思うのは新潟県古志郡に伝わる「風の神と子ども」という昔話の中に出てくる食べ物です。秋のある日、子どもたちが遊んでいると、知らないあんにゃがやってきて、なにやら不思議な尻尾に子どもたちを乗せます。そして、空を飛んで梨や柿や栗がいっぱいになっている所に連れて行ってくれます。子どもたちは、おなかいっぱい梨や柿、栗を食べて遊びますが、あんにゃは突然、用事を思い出した！と急に帰ってしまうのです。山の中に置いてけぼりになった子どもたちが灯を目指して歩いていくと、そこには風の神の親どんのぼたぼた太ったでっかいばあさまがいました。そしてお腹をすかせた子どもたちに真っ白いまんまとフウフウ吹いて食うような熱いとうふ汁をごちそうしてくれるのです。わたしはこの「フウフウ吹いて食うような熱いとうふ汁」がとてとても好きです。子どもたちはおなかいっぱいになり、安心を感じる場面です。なにより、白米とお豆腐のお味噌汁がとてとても美味しそうに表現されています。今よりもっと食べ物に困った時代から語り継がれたお話なんだなあと思います。

## おいしいものが出てくる昔話

- 『だめといわれてひっこむな（愛蔵版おはなしのろうそく5）』  
 東京子ども図書館／編 大社玲子／絵 東京子ども図書館  
 ※「風の神と子ども」収録
- 『わかがえりの水』  
 広松由希子／ぶん スズキコージ／え 岩崎書店
- 『やまなしもぎ』  
 平野直／再話 太田大八／画 福音館書店
- 『まほうのなべ』  
 ポール・ガルドン／再話・絵 晴海耕平／訳 童話館出版  
 ※中央・駒込・上池袋・池袋・目白所蔵

# じぞうさんぽ

## 〈あつまれ としまくの森〉

行楽の秋、緑に囲まれてのんびりしたいという皆様。実は、豊島区にも立派な森があるのです。その名も、**池袋の森**と**目白の森**。今回は、池袋と目白、二つの森をご紹介します。



軽井沢？ 池袋です（池袋の森）



ヒガンバナ科ショウキスイセン（池袋の森）



山の空気が味わえます（目白の森）



お地蔵さんと車掌さん、奇蹟の一枚！（踏切地蔵）



ヤマボウシの実に飛行機雲（目白の森）

旅のお供に  
 ふさわしい図書館  
 蔵書をご紹介します

## ともぼん お供本

- 『森のさんぽ図鑑』 長谷川哲雄／著  
 築地書館 (653 八)
- 『公園で探せる昆虫図鑑』 石井誠／著  
 誠文堂新光社 (486 イ)
- 『あした出会える野鳥100』 柴田佳秀／文  
 菅原貴徳／写真 山と溪谷社 (488 ア)
- 『東京ミルクものがたり』 前田浩史／編著  
 矢澤好幸／編著 農山漁村文化協会 (642 マ)

出発は、JR池袋駅北口。まずは線路沿いに大塚方面へ。量販店の角を曲がり、平和通りのアーチをくぐって少し歩くと、右手に『豊島区立 池袋の森』と書かれたバラのアーチが現れます。ビルとお店の隙間にぽっかり開けた生け垣の小径を抜けると、そこはもう森の中。「本当に池袋？」と我が目を疑うほどの巨大なユリノキの傍らには、ログハウスが建てられています。順路に沿って小屋の裏に回ると、水生の動植物でいっぱい『トンボ池』（春～秋にはギンヤンマも見られるそう）や、多種多様な草花や大木に囲まれた小さな散策路が、ちょっとした高原気分を味わわせてくれます。この場所は元は牧場で、後に林政学者・島田錦蔵氏の屋敷跡だったところを豊島区が買い取り、平成9年に開園しました。管理人さんによると、この場所に大木が残っているのは、池があったおかげで戦時中も焼けずに済んだからとのことでした。

平和通りから劇場通りに出て目白方面へ。通りの終点から住宅街に入り、最初の角を右折して細道を進みます（途中、左手に**上り屋敷公園**あり）。突き当りを右折し、すぐ次の角を左折すると、西武池袋線の踏切です。実はここ、踏切ファンの間で**V字踏切**と呼ばれている名所。遮断機脇には**踏切地蔵**の祠もあり（交通安全祈願のため、地元の方々が建立されたそう）、不思議な光景です。踏切を渡り、二股に分かれた道の左側へ。二つ目の角を右折し（一つ目の道は行き止まり）、再び細道へ（最初の細道が線路で分断された続きのようです）。そのまま道なりに歩くと、**目白の森**の正門に到着です。

**目白の森**の開園も、平成9年。元屋敷林のため、当時の木々が数多く残っています。こちらは**池袋の森**の2倍以上の面積（約3200㎡）で、小さな森林公園といった趣きです。野鳥や昆虫もかなりの種類が生息しているようで、正門前のログハウスには、動植物についての展示コーナーがあります（春先に飛来したというオオタカの写真にびっくり！）。広場の奥の切り株のモニュメントには、囲いと共に「ハチに注意」の看板が。遠くから眺めると、隙間からハチが入り出しています。どうやら巣を作っている模様（来園時にご注意を）。遊歩道の木々の間をクロアゲハが何頭も飛び交っていたり、コガネムシが草むらでモゴモゴしていたりと、確かに昆虫天国のようです。樹木の種類は椎や樅など常緑樹がほとんどですが、楓や桜、椿などもあり、季節ごとにまた訪れたくなる、素敵な森でした。